

インターバンクの声（2017年10月18日）

ニューヨーク市場の序盤、円相場は米長期金利の上昇から112円40銭台までドル買いが進んだが、終盤には東京市場からロンドン市場まで続いた112円台前半に戻している。

普段それほど敏感に反応することのない米輸入物価指数が市場予想を上回り、石油を除いた輸入物価も前月に続いて0.3%上昇したため、静かだった円相場が急にドル買いに傾いた。

これより前に好調な米企業決算も発表されており、ドルは対円だけでなく、ユーロや豪ドルなどに対しても強含んだ。さらに次期FRB議長人事を巡って、イエレン現議長よりもタカ派寄りのジョン・テイラー・スタンフォード大学教授が有力候補に踊り出ていることもドル買いに繋がっている。学者よりも企業家がお気に入りだったトランプ大統領が面談でえらくテイラー教授を気に入ったようだが、結局はパウエルFRB理事やウォーシュ元FRB理事に落ち着く可能性もある。

トランプ大統領は9/27に次期FRB議長候補を2,3週間以内に発表する考えを示しており、本来なら今日、明日あたりがその時期だ。ただトランプ大統領は何を決めるのも予定より遅れるようで、中国共産党大会での習近平の側近・常務委員人事を確認するのが先になるかも知れない。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。